

平成25年度特定地域再生事業費補助金事業の概要書

【テーマ：①ーイ】

1 事業名	
げんき かみしほろ まちなかくうかんすいしんじぎょう かみしほろちょうこうぎょうせつさいへんけいかく 元気まち上士幌～ふれあいの街中空間推進事業に係る、上士幌町公共施設再編計画 ともな かしょう げんき しんせつ きほんけいかくさくてい かか かくしゆちようさじぎょう に伴う（仮称）元気まちぷらっとセンター新設の基本計画策定に関わる各種調査事業	
2 事業主体の名称	
ほっかいどうかとうぐんかみしほろちょう 北海道河東郡上士幌町	
3 新規・継続	
新規	
4 補助金事業の期間	
平成25年 7月 ～ 平成26年 3月	
5 特定地域再生事業費補助金の種類	
特定地域再生計画策定事業	○
特定地域再生計画推進事業	
6 要望国費	
5, 760, 000円	
7 事業の概要	
<p>1907年からの当町への入植により増加していた人口は、1955年頃を境に減少の一途を辿り、農業経営規模の大型化による離農や林業の衰退による工場の閉鎖、各種官公庁の合理化等により最大時の40%以下となる5,080人（2010年国勢調査）まで減少している。それに伴い高齢化率の増加、肥大化した中心市街地・商店街の空洞化が顕著に進んできている。</p> <p>上士幌町では1973年より「上士幌町総合計画」を策定し、2012年度より第5期上士幌町総合計画の中で、2021年（平成33年）に「人口5,000人」の町を目指して、施策の大綱としても「健康で安心して暮らせるまち」「人づくりを大切にす るまち」「自覚を持ち心が通いあうまち」として定めている。</p> <p>これらの課題を克服し、大綱に定めた「まちづくり」を推進するにあたり、平成24年から開始した公共施設再編計画の中で、中心市街地の活性化の中核となる生涯学習センターの建替にて、老朽化し点在する各公共施設の統合と併せて、施設の「ハード・ソフトの両輪」を町民と共に検証し実行していくことで、<u>地域コミュニティーの再生と活性化を図り</u>、世代を超えた生きがいや居場所づくりを行うことで、活力のあるコンパクトシティ化を目指し少子高齢化に対応すべき各種事業の実施を目的とする。</p>	

平成25年度特定地域再生計画策定事業の内容説明書

【テーマ：①ーイ】

1 事業（調査等）の名称
<p>げんき かみしほろ まちなかくかんすいしんじぎょう かみしほろちようこうきようしせつさいへんけいかく 元気まち上士幌～ふれあいの街中空間推進事業に係る、上士幌町公共施設再編計画に <small>ともな かしょう げんき しんせつ きほんけいかくさくてい かか かくしゅちようきじぎょう</small> 伴う（仮称）元気まちぷらっとセンター新設の基本計画策定に関わる各種調査事業</p>
2 事業主体の名称
<p>ほっかいどうかとうぐんかみしほろちよう 北海道河東郡上士幌町</p>
3 地域の課題等
<p>（1）人口や社会経済の状況</p> <p>地域概要 北海道十勝管内北部に位置する上士幌町は、約700km²の広大な面積を抱え、南部の平野部には畑作や酪農地帯が広がり、北部には大雪山国立公園を中心とした森林が広がっており、農畜産物、豊かな自然、温泉、「ナイトハイ高原牧場」を代表とする景観、近代産業遺産である「旧国鉄士幌線アーチ橋梁群」など多様な地域資源に恵まれた地域である。 集落の状況は、町の南部に市街地が形成され、その周辺の平野部に農家が点在する形となっており、北部の山間部に位置するぬかびら源泉郷地区には温泉街が形成されている。</p> <p>人口・世帯数の推移 ※国勢調査より（ ）内は世帯数及び高齢化率 昭和35年～10, 570人（2, 050世帯・4. 1%）であったが、昭和50年～8, 143人（2, 295世帯・7. 6%）、平成2年～6, 380人（2, 213世帯・15. 5%）平成17年～5, 229人（2, 215世帯・30. 1%）と推移し、直近の平成22年には5, 080人（2, 225世帯・31. 4%）となり、世帯数には大きな変動はないものの、人口が大幅に減少し高齢化率が増加していることから、高齢者の独り暮らしが、激増していることが推計される。</p> <p>産業構造の変革 昭和28年に電力開発・供給を目的とし町北部の糠平地区に発電所建設が着手され、併せて戦後復興などによる木材需要と併せ、急激な人口増加を見せた。しかしながら、電源開発による各種工事の完了、森林資源の枯渇及び建築資材の外洋材へ需要の移転、さらに昭和61年にはNTTの合理化と翌年の国鉄士幌線の廃止により、急激に過疎化が進み、中心市街地の空洞化と併せて、商店街の衰退も著しい状態となってきた。</p> <p>（2）地域課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人口・世帯数の推移の通り、独居老人の増加により介護度が上昇し医療費・介護保険等の財政への影響が挙げられる。また地域特性として農業が基幹産業の一つであるため、中心市街地以外に各世帯が離散している点も課題として挙げられる。 ② 小学校は最大10校あったが、平成23年度に2校廃校、平成25年度末は更に1校廃校予定であり、平成26年度は3校となる。中学校は昭和42年に統廃合となり1校のみ。 ③ 中心市街地の空洞化に伴い、商店街の店舗廃業が相次ぎ、市街地における未利用地・未利用建物も増加している。



- ④ 公共施設は軒並み老朽化し、特に青少年・高齢者の為に施設は、市街地内で分散し立地している為、一部の利用者には利便性が悪く、また施設の安全性にも問題があり、行政運営上の効率も著しく悪い。

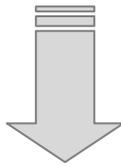
(3) 地域資源

- ① 高齢者数に対して介護認定率が15.4%（北海道平均18.1%全国平均17.3%）と他町村に比べて低いため、所謂「元気なお年寄り」が多い町である。
- ② 十勝管内の道立高校が廃校また廃校の危機に晒されている中、管内の僻地高校（浦幌高校廃校・足寄高校、新得高校は廃校の危機）は生徒数の減少に悩んでいる。上士幌高校に関しては新規一年生で2学級（各クラス40名弱）の構成となっており、全員が部活動に属し活発な高校生活を送っている。
- ③ 町内にNPOが5団体あり、それぞれ特徴的な活動をおこなっている。NPOサポートセンター白樺は障害者支援・高齢者介護事業等、NPO法人上士幌コンシェルジュは移住定住交流促進事業・地域産品販売事業、NPO東大雪ガイドセンターは自然体験交流事業をおこない、地域活性化と併せて地域住民の活力の創出に深く寄与している。
- ④ 街なか整備事業による市街地道路整備実施に伴う、市街地周辺エリアからの流入の容易性が向上。

4 調査の作業フロー

2013年7月

1. 事前準備



- ① 調査内容の検討・確定
- ② 調査対象者の選定
- ③ 公共施設再編計画との各種摺合せ
- ④ 統合予定の各施設との事前摺合せ
- ⑤ 調査に伴う資料、備品等の準備
- ⑥ 調査実施のためのワークショップの内容及び実施要項の検討・作成

2013年9月

2. 調査業務①

【デスクワーク】



- ① 有識者による講演会・セミナー実施
- ② 統合予定施設の利用者ニーズ調査実施
- ③ 中心市街地の空き地・空き家調査実施
- ④ 統合予定施設の現状施設調査実施
- ⑤ 公共施設・民間利便施設の配置計画調査実施
- ⑥ 町内世帯状況調査実施

2013年11月

3. 調査業務②

【ワークショップ】



- ① 統合予定施設管理者・運営者とのワークショップ実施
- ② 利用者・利用予定者とのワークショップ実施

2014年1月

4. 計画策定

- ① 調査内容の各種取り纏め
- ② 調査結果を踏まえた（仮称）元気まちぷらっとセンターの新設計画案の策定

5 事業（調査等）の基本方針

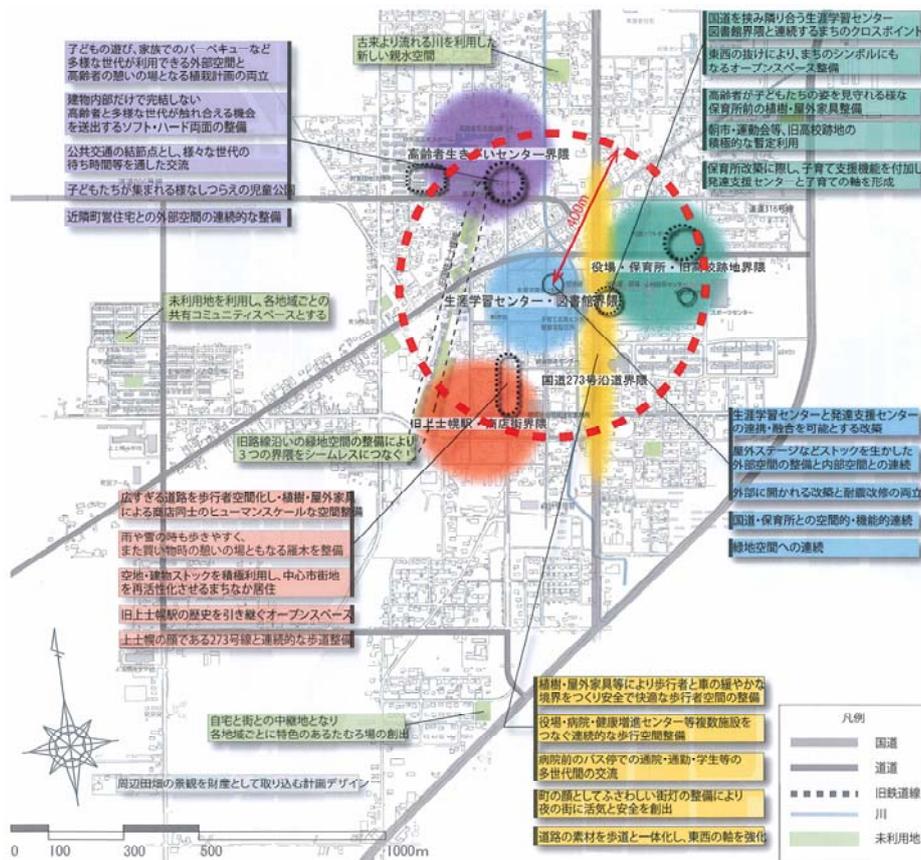
(1) 背景

上士幌町は1973年度より「上士幌町総合計画」を策定して以来、これまで4期にわたって計画を策定しまちづくりを進めてきた。その間、産業構造の変革や少子高齢化に伴い、まちの姿も大きく変貌を遂げてきている。縮小方向に歯止めをかけ、まちづくりの将来について、より明確に指針を示すべく、2012年度に2021年までの10年間の期間とした「第5期上士幌町総合計画」を策定した。中でも「健康で安心して暮らせるまち」「人づくりを大切にすまち」「自覚を持ち心がよいうまち」を大綱として定め、安心・安全やコミュニティ、また生涯学習などに力を入れた、「元気まち上士幌」を推進する計画となっている。

本町では町内に点在し老朽化著しい公共施設について、平成24年度に公共施設再編に向けて、北海道大学大学院工学研究院の協力を得て、「上士幌町公共施設再編に向けての計画要点・計画指針」の提案を受け、2度の講演会・2度のワークショップ、また意見交換会を通じ町民へも周知を図り、再編への動きを進めてきた。その中で大きなコンセプトとして「まちの整体」を提唱し、小規模人口を見据えた自立したまちづくりの将来について4つの計画要点を掲げている。

- ① まちの骨格の分析（立地特性の把握・未利用地の再評価）
- ② 共同・共有の方法（公共サービスの相乗効果・組織と建物の切り離し）
- ③ 町民交流の仕掛け（世代間のコミュニケーション・無目的リピーターの歓迎）
- ④ 繋がりのデザイン（生活と連動する利用・楽しめる施設間の移動）

※以下「上士幌町 公共施設再編へ向けての計画指針」（作成：北海道大学）



この提言を受け、平成25年から平成27年（一部平成28年度以降）の3か年に渡り、上士幌町公共施設整備方針を策定し、具体的な再編計画に動き出した。

上士幌町公共施設整備方針では、具体的に下記の施設について計画を策定している。

- ① 保育所（幼保一体化・町営）
- ② 子育て支援センター（未就学幼児の育児に関してサポートする組織）
- ③ 発達支援センター（障害のある児童の支援）
- ④ 生涯学習センター（サークル活動の拠点・社会福祉協議会・消費者協会の拠点）
- ⑤ 高齢者福祉施設（社会福祉法人上士幌福寿協会）
- ⑥ 青少年会館（学童保育所）
- ⑦ 生きがいセンター（高齢者サークル・サロン機能）
- ⑧ 消防署庁舎

これら全ての公共施設について、建物の老朽化・耐震性能の不足などのハード面はもとより、子育て支援においては、幼保一体化を目指す保育所を始め、小学校・中学校までは町の自主事業としての整備、更に道立の上士幌高校までを通じて「子供が輝く子育てと教育」を目指す。

また高齢者支援としては、安心して老後を送るために、町全体で高齢者を支えあうような、『仕組みづくり』の意味での整備実施とし、単に前述の施設の更新のみに留まらず、コンパクトシティ化を目指す意味において、施設統合を行い効率化を図り、またその統合による「シナジー（相乗効果）」をもたらすことで、子供から高齢者までが、生き生きと過せるソフト面の整備も町民を始め町内の関係各方面より期待されている。

（2）特定政策課題の具体的なテーマと内容

「上士幌町公共施設再編計画に伴う（仮称）元気まちぷらっとセンター」の基本計画を策定するにあたり、特定政策課題の具体的なテーマを『①地域における少子高齢化の進展に対応した良好な居住環境の形成 イ：居住者の少子高齢化が進む市街地において保険・医療、介護・福祉、子育て等のサービスを一体的に整備・提供するまちづくり』とし、下記の項目の実現に向けた調査を行う。

【世代間を超えた「生きがい創り」「居場所創り」を目指した『センター』の開設】

① ハード面『各公共施設の統合』

前述より「生涯学習センター」の建て替えに併せて「発達支援センター」「青少年会館（学童保育所）」「生きがいセンター（高齢者サークル・サロン）」の統合を実施。また既存の生涯学習センター内にある、社会福祉協議会及び消費者協会についても本施設に入居する。本事業による調査に基づき、単体としての機能の更新及び充実と併せて、統合することにより求められる「新しい機能」や様々な相乗効果を期待できる配置また空間について分析し、新施設の基本計画案策定を実施する。それぞれの特徴について下記に記載。

A：生涯学習センター（基幹施設）

用途はサークル活動実施の会議室・ホール機能及び、社会福祉法人・消費者協会の事務所機能。昭和42年竣工の築46年の建物で、老朽化が激しく耐震性能も確保できていない。中心市街地に立地し、同敷地内に図書館が併設されており、現状連結させている。また併せて比較的大きな駐車場もあるため、夏場はイベント広場として利用

されている。問題点として現状では、老朽化もあり一部のサークル活動の目的を持った来訪者のみの利用に留まっており、生涯学習のセンター機能としては果たされていない。

B：発達支援センター

障害のある子供の支援を中心とした機能で、隣接する旧法務局の建物を活用している。他施設同様老朽化が著しい。

C：青少年会館（学童保育所）

中心市街地の外れに位置し、上士幌小学校と中心市街地の中間に存している。昭和46年建設で築42年の建物を活用しており、他施設同様老朽化が著しい。

D：生きがいセンター

高齢者のサークルなどを行うサロンの施設。

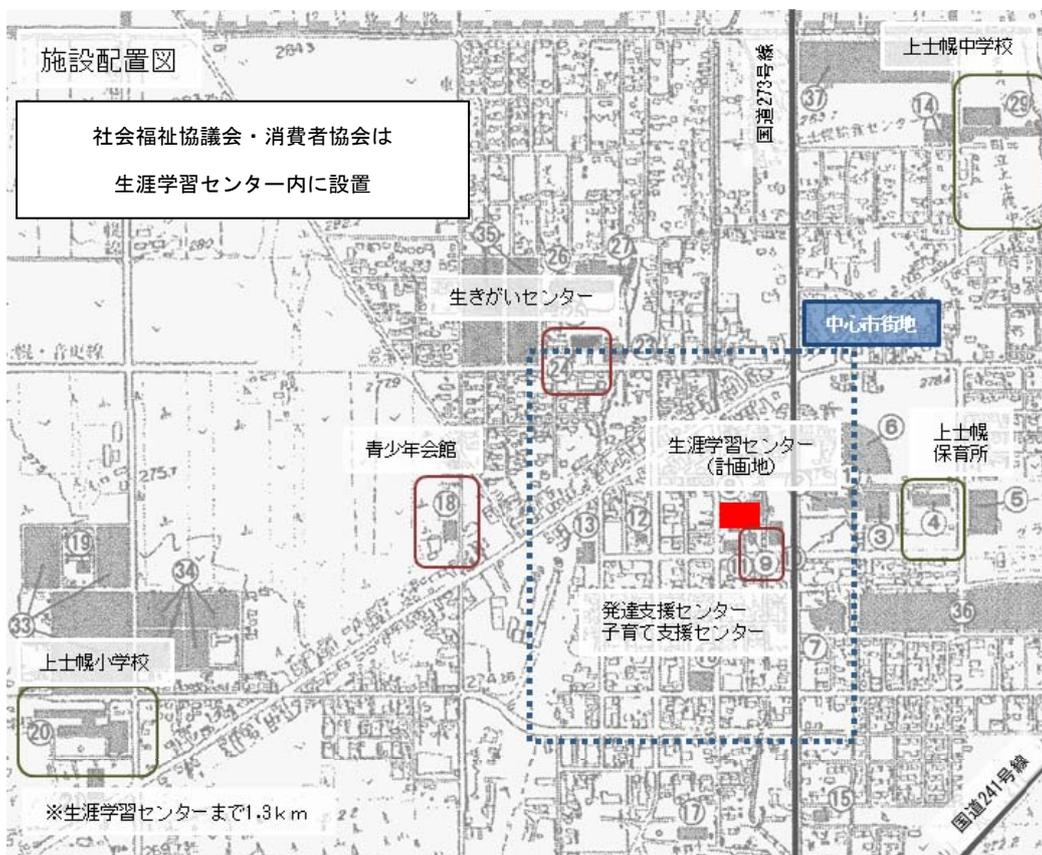
専任指導員を配置し陶芸、石細工、手芸、写真などの活動に取り組み、高齢者が生きがいを持って活動しているセンター。

E：社会福祉協議会

1951年(昭和26年)に地域住民の相互扶助い精神により、地域住民の生活の向上を目的に設立され、1982年(昭和57年)に法人格をもった上士幌町社会福祉協議会となる。現在の活動は、共同募金推進事業と低所得者福祉推進事業、ボランティア活動、高齢者福祉推進事業を行っており、本町の福祉政策の担い手として活動している。

F：消費者協会

一般の消費者協会の機能の中でも特に「高齢者」対応の面での要素が強く、高齢者の精神面の不安をケアする団体として位置づけられている。



② ソフト面『運営・管理体制の構築』

上記の機能を全て統合することで、施設管理の面での効率化は基より、施設が集約することでのシナジー（相乗効果）を目指す。具体的には地域住民の「生きがい創り」「居場所創り」の場を創出し、施設に統合される「世代を超えた」要素がミックスされる仕掛け・仕組みを、NPOを中心とした地域住民やボランティア団体、アダプトプログラムを通じて構築する。また隣接する図書館機能とも連携を図る。

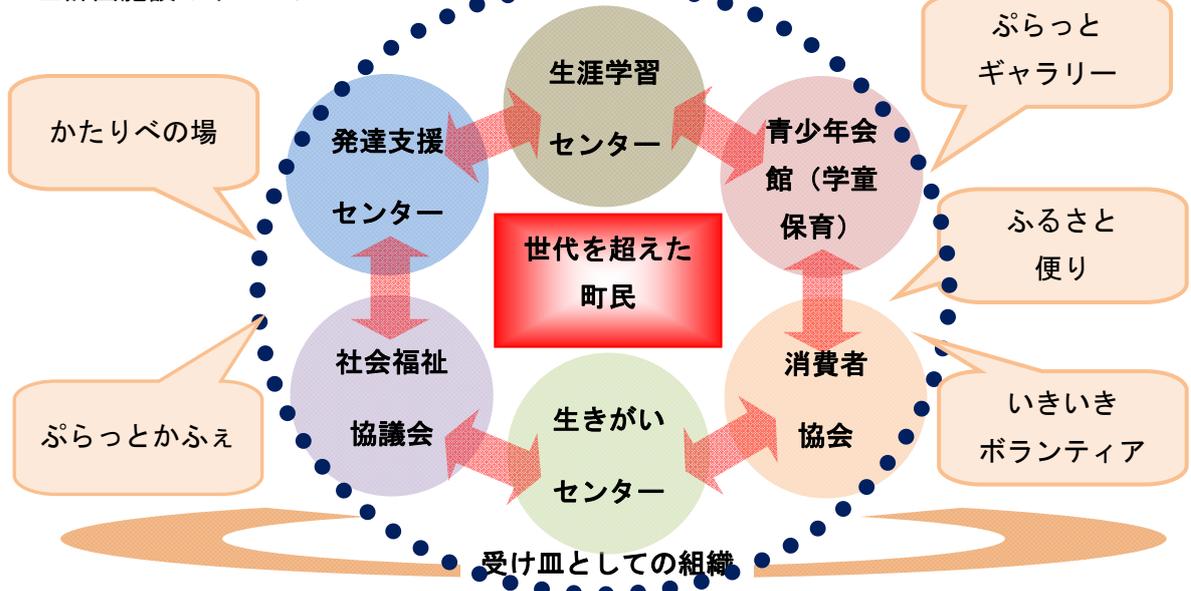
具体的には下記の内容とし、実施主体となる団体による運営を行う。またこの主体となる団体について、形式的なものとならないよう、本事業による調査にてハード面と合わせて提案を行う。

- A：学童保育の児童に対して、隣接している図書館とも連携し、高齢者の読み聞かせや歴史の継承などを語る「かたりべの場」を設置
- B：高齢者が買い物の途中で、高校生が帰宅の途中で「ぷらっと」寄れる場を設けるため、地域コミュニティカフェ「ぷらっとかふえ」設置。
- C：学童保育の児童と高齢者が共同して行えるアダプトプログラムを新設し、当施設を拠点に「生き生きボランティアinかみしほろ」を実施
- D：文化系サークルの発表の場として展示スペースを設け、子供から高齢者までの作品展示スペース「ぷらっとぎやらりー」を設置
- E：別施設である「かみしほろ情報館」にて行っているネットショップによる物品販売事業及びふるさと納税の感謝制度である地域特産品送付にあたり、梱包作業を高齢者に補助してもらい、梱包内に梱包者の名前と顔写真と一言を添付。前述作業を当施設を拠点に行う「かみしほろふるさと便り」を実施

■既存の施設構成

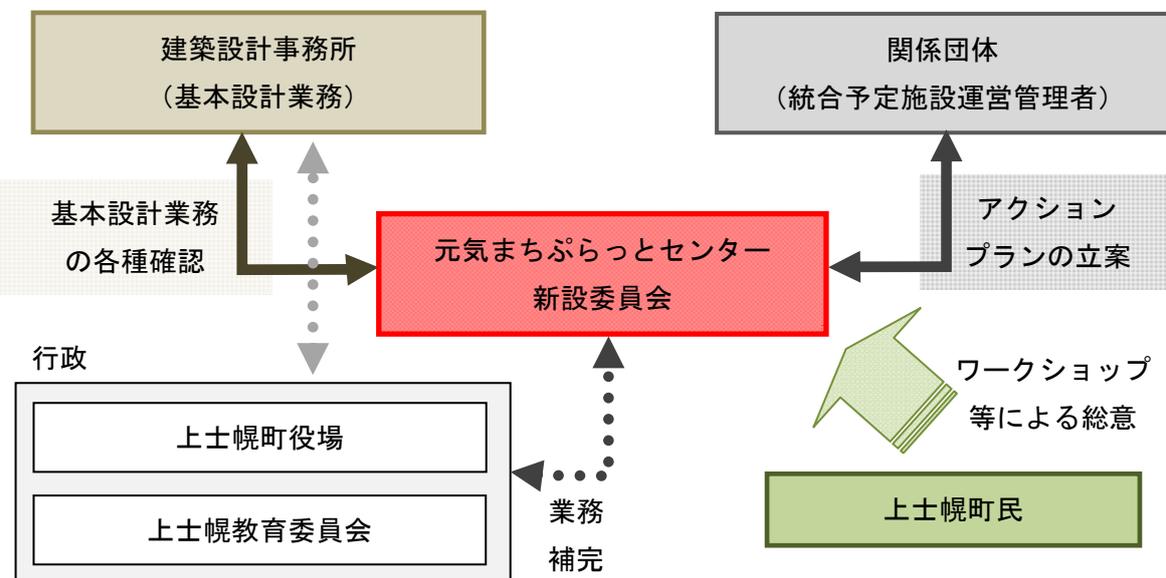


■計画施設のイメージ



③ 確実な事業実施に向けての「元気まちぷらっとセンター新設委員会」設置

本事業を遂行し調査を実施した結果として、「元気まちぷらっとセンター施設基本計画案」を策定するが、以降ハード面においては基本設計作業、ソフト面においては組織の構築とアクションプランの立案を行う中で、ワークショップや実施した調査が正確且つ効果的に反映されているかどうかを確認する委員会を設立する。また委員会の構成及び権限についても施設基本計画案にて策定する。



(3) 目指すべき方向性

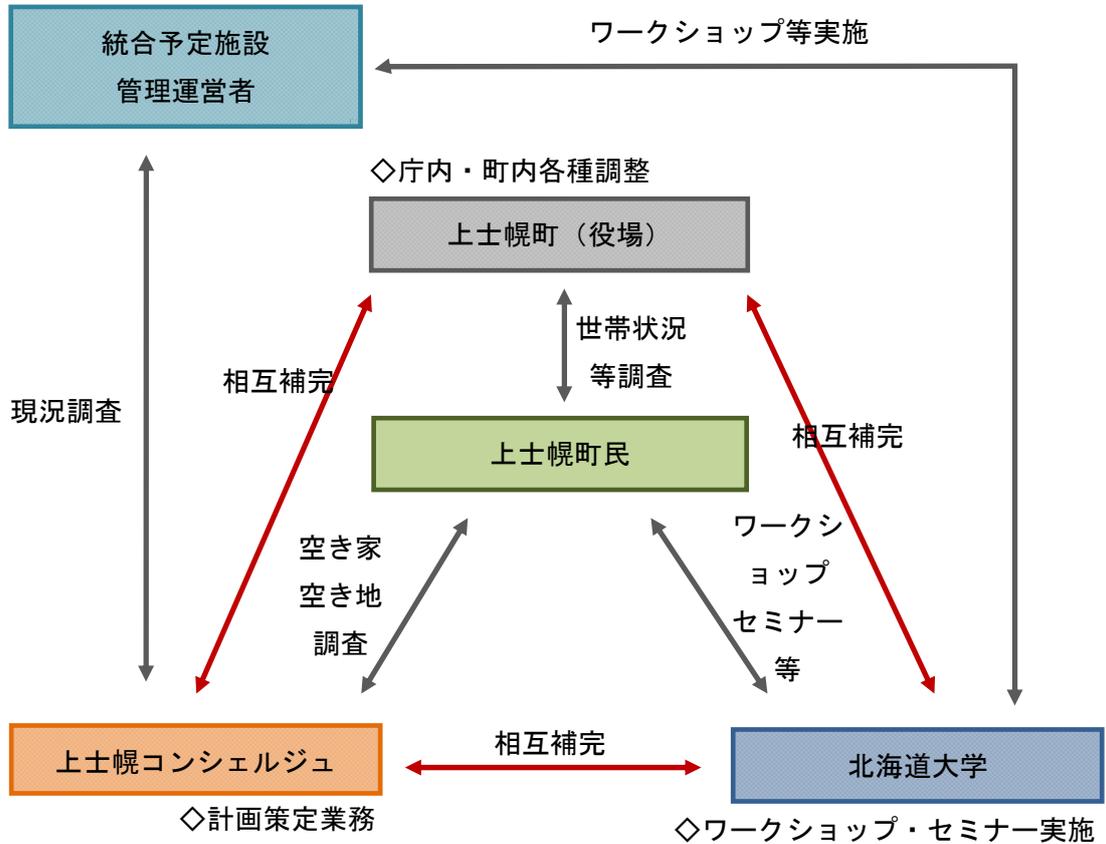
過去、度々老朽化或いは新規機能として必要、また求められる施設について、行政として都度対応をしてきたのは、本町のみならず他の自治体も同様であると考え。しかしながら、少子高齢化が進み財政状況が縮小している近年において、大規模な新規施設（ハコモノ）は自治体にとって大きな負担となってきた。

本町では様々な施設が老朽化し、更新が必要なタイミングとなっているが、これを「期」として、コンパクトな街づくりへと変革し、更には真に町民にとって必要な施設へと昇華するために、本事業により立案された「施設基本計画案」がソフト・ハード両面で機能するものとなるよう、十分な調査・分析を行うことを目的としている。

6 体制

団体名	役割
上士幌町（役場）	<ul style="list-style-type: none"> ■計画査定に向けての庁内調整・庁内組織の組成 ■調査・ワークショップ対象者の選定・通知 ■世帯状況・利便施設等配置状況調査 ■利用者ニーズ調査
NPO法人 上士幌コンシェルジュ	<ul style="list-style-type: none"> ■調査項目・ワークショップ内容の検討 ■空き家・空き地等未利用状況調査 ■統合施設の現状調査・意識調査 ■調査内容の取り纏め ■調査内容に基づく施設基本計画案の策定
北海道大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ワークショップの実施 ■町民対象の講演会・セミナーの実施 ■施設基本計画案策定補助

■体制イメージ図



7 事業（調査等）の内容

調査方法

① 統合予定の既存施設調査

対象：生涯学習センター・発達支援センター・青少年会館・生きがいセンター

項目：各施設の建物概要（用途・構造・規模・築年数・各諸要室の面積構成）・利用状況・立地状況・運営の問題点、改善点等

方法：施設の図面を準備（不備の施設については略図作成）し各施設を訪問して現況調査を実施。また周辺環境や対象となる他の施設（例：青少年会館と上士幌小学校など）との関係性も調査。

目的：統合することでのメリット・デメリットを精査。また現状施設の利用状況を把握することで、機能上・面積上の効率化や相乗効果を図るための必要条件を整理する。

② 町内の既存利便施設等の現状調査

対象：各種公共施設・生活利便施設等

項目：用途・利用状況・配置状況

方法：上士幌町内の地図に施設配置を記載し、当計画における統合予定施設との関連性を確認。

目的：統合予定施設への人の流れを把握し、またそれが新施設ができた場合どのように変化するかを検証。

③ 統合予定施設「利用者」の意識調査

対象：20代～70代で合計500名程度

項目：各施設の利用状況、問題点、改善点、統合の可否・メリットデメリット等

方法：アンケートを作成し対象者に送付。回収しデータ分析。

目的：現状の問題点や改善点を把握し、新施設の計画に反映させる。また現状のほうが良い場合については、新施設がそれを補完できるかを検証。更に「統合」そのものに対する意識も確認。

④ 統合予定施設の「運営・管理者」の意識調査

対象：各施設の運営管理者（代表者・スタッフ（規模に併せて任意抽出））

項目：各施設の利用状況、問題点、改善点、統合の可否・メリットデメリット等

方法：質問項目を定めて、それぞれの運営管理者及び実務者にヒアリング実施。

目的：現状の問題点や改善点を把握し、新施設の計画に反映させる。また現状のほうが良い場合については、新施設がそれを補完できるかを検証。ソフト面の新規の取組について基本計画案に反映させるプログラム吸い上げ。

⑤ ワークショップ・講演会・セミナー実施

対象：20代～70代で各回50名程度（町民対象）・統合予定施設の「利用者」「運営管理者」（随時対象者）

項目：他地域における類似事例の紹介・当施設新設を前提とした上士幌町の公共施設再編に向けての目指すべき方向性

方法：上記実施。

目的：新設施設がもたらす効果について、各々の施設が単に更新されるだけでなく、相乗効果による「メリット」について広く普及。

8 評価項目に対する内容	
8-1 国策への寄与	<p>「上士幌町公共施設再編計画に伴う（仮称）元気まちぷらっとセンター」の基本計画を策定により、特定政策課題である、「地域における少子高齢化の進展に対応した良好な居住環境の形成」というテーマに対し、以下の点に対して寄与できるものとする。</p> <p>① 地域の「居場所」を創ることで、青少年から高齢者まで地域住民の「柔らかい見守り」による安心安全を供出することが可能となり、青少年育成を始めとし、高齢者の生きがい創りにも繋がり、介護度を上げずに生き生きとした「健康」で「元気まち」を生み出す。</p> <p>② 世代間交流の場の提供により新しいコミュニティの創出を支援することが可能となる。また青少年・高齢者の社会活動への参加の向上も期待できる。</p>
8-2 取組の先駆性・モデル性	<p>他の地域に先駆けて、多様な関連する施設の統合により、行政運営の効率化を図ることは基より、運営管理を行うための「ソフト」を整備し、民間を主体とし官民連携の組織を構築することにより、所謂「ハコモノ」ではない、具体的な行為を伴う施設を設置する。またその組織も既存のNPOやボランティア団体、アダプトプログラムといった、<u>既にある「まちの資産・資源」</u>をフル活用することで、より現実的な計画として遂行可能である。更に事業実施段階においては、調査やワークショップに基づく町民の総意により作成した計画案の遂行を確認するために、施設の基本設計の段階より、事業内容を確認する委員会を設立し、確実に本計画が実施できるよう確認する。</p>
8-3 多様な主体	<p>計画策定段階では、地元NPOの上士幌コンシェルジュと北海道大学の協力による策定実施を想定している。NPO上士幌コンシェルジュは、都市と農山村の共生・対流を目的とした移住・定住・観光に対して、人・自然・食等の既存の地域資源を最大限に活用したコミュニティビジネスに関する企画・コーディネート・運営事業を行い、地域の自立を目指し、住民の高いモチベーションの創造への昇華を目指すとともに、地域全体でのまちづくりに寄与することを目的とし設立した団体で、地域コミュニティの多面的な連携では成果を発揮している。</p> <p>また北海道大学は、平成24年度に「上士幌町の公共施設再編へ向けての計画要点・計画指針」を策定しており、複数回に渡り町民・町役場対象にワークショップやセミナーを実施している。</p> <p>事業実施段階では、上記2団体を始めとし、町内のNPO4団体・ボランティア団体・アダプトプログラムのメンバーなど、運用の担い手にも積極的な参加を受けて、町民一体となって事業実施を推進していくことを想定している。</p>

<p>8-4 熟度</p>	<p>本計画の基幹となる生涯学習センター（現状名称）の建て替えにあたっては、第5期上士幌町総合計画において、老朽化・耐震性能不足の観点より以前より基金を積み立てしている為、具体的に平成26年度より基本設計の開始を予定している。しかしながら現状と同機能の施設の設置は、今後のまちの状態を鑑みるに相応しくなく、特定政策課題の解決を具体策として実施することを目指し、町民にとってより価値のある施設を目指すことを目的とする。</p> <p>重ねて実施主体について、北海道大学が主体となり公共施設再編提案を立案、上士幌町においては、NPOなどを含めた民間組織も充実していることから、新たに組織を立ち上げるのではなく、理念を共有化することで既存の活力による事業実施が可能である点において、熟度は高いと言える。</p>
<p>8-5 その他</p>	
<p>9 活用する規制の特例措置の内容</p>	
<p>該当なし</p>	

10 スケジュール												
項目	年月	平成 25 年度										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査内容の検討・対象者の選定				●	→							
公共施設再編計画と摺合せ				●	→							
統合予定施設摺合せ				●	→							
調査用資料・備品準備				●	→							
WSの内容・実施要項検討				●	→							
有識者の講演会セミナー						●	→					
利用者ニーズ調査						●	→	→	→			
空き家・空き地調査						●	→					
統合予定施設現状調査						●	→					
利便施設等配置調査						●	→					
町内世帯状況調査						●	→	→	→			
統合予定施設管理者等WS								●	→	→		
利用者・利用予定者WS								●	→	→		
調査内容取り纏め											●	→
新設計画案の策定											●	→

11 事業費（調査費）の内訳	
経費の区分	内訳
報償費（調査員費用）	
【7-②利便施設現況調査】	
【7-③利用者意識調査】	
旅費（上士幌⇒札幌）	
需用費	
消耗品（調査用消耗品費等）	
印刷製本費（再生計画印刷 カラー300部）	
役務費	
通信運搬費（調査用アンケート等郵送料）	
【7-③利用者意識調査】	
委託料	
（地域住民意識形成業務）	
【7-⑤ワークショップ実施】	
（調査・分析業務）	
【7-①既存施設調査】	
【7-④運営管理者意識調査】	
（計画書作成業務）	
（計画図面及びパース等作成業務）	
経費計	5,760,000円
要望国費	5,760,000円
12 その他	